

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通し、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

目 標

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

位置づけ

既習の言語文化の知識を活用し、近現代の文学作品における社会的背景の読解や登場人物の心情理解を通して他者へ共感する力を養い、自分の考えを深める。三年次でも二単位実施。

■使用する教材

- ・教科書「文学国語」(東京書籍)
- ・参考書「新訂総合新国語便覧」(第一学習社)

■授業の流れ、予習・復習を含めた学習方法

- 朝の10分読書を活用し、文学作品に日頃から触れる。
- わからない単語の意味調べや、作品が生まれた時代の歴史的背景から生まれる社会的価値観を想像する。

■学習する単元とおおよその時期

- ・4月～5月 A
  - 随筆「雨月物語」
  - 小説「山月記」
- ・6月～8月 B
  - 評論「詩と感情生活」
  - 詩歌「鉄」「永訣の朝」ほか数篇
  - 小説「山椒魚」
- ・9月～12月 C
  - 小説「こころ」
- ・1月～3月 D
  - 評論「文学のふるさと」「文学の未来」
  - 小説「駈込み訴え」(自主教材)

■観点別評価について

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	A ・想像や心情を豊かにする言葉の働きや文章の種類と特徴などについて理解を深めることができる。	・文章の種類に応じて適切に文章を読み、作品に現れる筆者のものの見方や考え方などをとらえ、自分のものの見方や考え方を深めることができる。	・関連する知識や文章を自ら探したり、様々な既存の知識と関連付けたりしながら文章を読み、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。
	B ・上記を概ね達成できている。	・上記を概ね達成できている。	・文章を読む基本的な知識技能を持とうとし、自分の考えを整理しようとしている。
	C 上記が達成できていない	上記が達成できていない	上記が達成できていない
評価の場面	単元テスト 小テスト 課題の提出内容	単元テスト 単元後の課題プリント 授業中の発言内容	授業中の参加態度 課題の提出状況

■領域ごとの授業時間数について（国語科の新学習指導要領科目のみ）

単元名	「雨月物語」	「山月記」	「詩と感情生活」	「鉄」「永訣の朝」ほか数篇	「山椒魚」	「こころ」	「文学のふるさと」 「文学の未来」	「駆込み訴え」
話すこと・聞くこと		1				2		
書くこと	1	1	1	1	1	1	2	1
読むこと	4	8	4	5	9	12	8	2

計 6 4 時間

年間単元テストの予定

実施予定時期	実施予定内容
7 月	上記の単元 A
9 月	上記の単元 B
1 月	上記の単元 C
3 月	上記の単元 D

●その他に単元ごとの確認はそのつど実施予定。